

平成25年5月



# 平成25年3月期決算説明資料

ハイライト	2頁	財務の状況【単体】	9頁
損益状況【単体・連結】	3頁	配当政策	10頁
損益状況【単体】	4頁	今後の取組方針	11頁
ATM利用件数と受入手数料単価の推移	5頁	ATM事業の拡充	12頁
ATM台数と平均件数の推移	6頁	海外送金サービスの早期収益化	15頁
ATM提携先の拡大	7頁	海外展開 FCTI関連	16頁
新サービスの状況	8頁		

※決算発表資料は、当社Webサイトからもご覧いただくことができます。  
[\(http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/\)](http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/)

本資料には、株式会社セブン銀行、及びその連結子会社の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATM事業及び金融サービス事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社、及びその子会社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。

## 【2012年度決算（単体）】

### ■ 経常収益(941億)、経常利益(320億)

ともに計画を上回り、11年度に続き増収増益

- ・ 設置台数は18,000台を突破
- ・ ノンバンクの利用件数は底打ち、緩やかに回復
- ・ 海外送金件数は年間18万件を達成。ローン残高は33億円

### ■ FCTIを買収、北米でのATM運営事業を開始

### ■ 配当は、期末0.25円の増配含め3.50円、年間では6.75円

## 【2013年度の見通し】

### ■ ATMビジネスの更なる拡大、新サービスの成長により、増収増益見通し

- ・ ATM設置台数は約19,300台。利便性、安全性を更に追求
- ・ 海外送金、個人向けローンサービスを新たな収益の柱に
- ・ 会計方針(減価償却方法)変更の影響を除いても単体ベースで増収増益となる見通し

### ■ 配当は0.25円増配し、年間配当7.00円とする予定

### ■ 連結決算は経常収益1,000億円台となり、増収増益を目指す

《 セブン銀行単体 》 (単位:億円)

	12年度 通期実績	13年度計画	
		通期	上期
経常収益	941	990	496
経常費用	620	635	317
経常利益	320	355	179
当期純利益	195	214	110

《 連結 》 (単位:億円)

	12年度 通期実績	13年度計画	
		通期	上期
	949	1,041	518
	630	694	343
	318	346	174
	193	207	105

注1) 計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 12年度通期連結決算には、FCTIの連結対象期間(2012年10月6日～2012年12月31日)のみ連結

注3) 連結決算、計画の為替レートは、2012年度決算を1米ドル=81.25円、2013年度計画を同92.00円にて換算

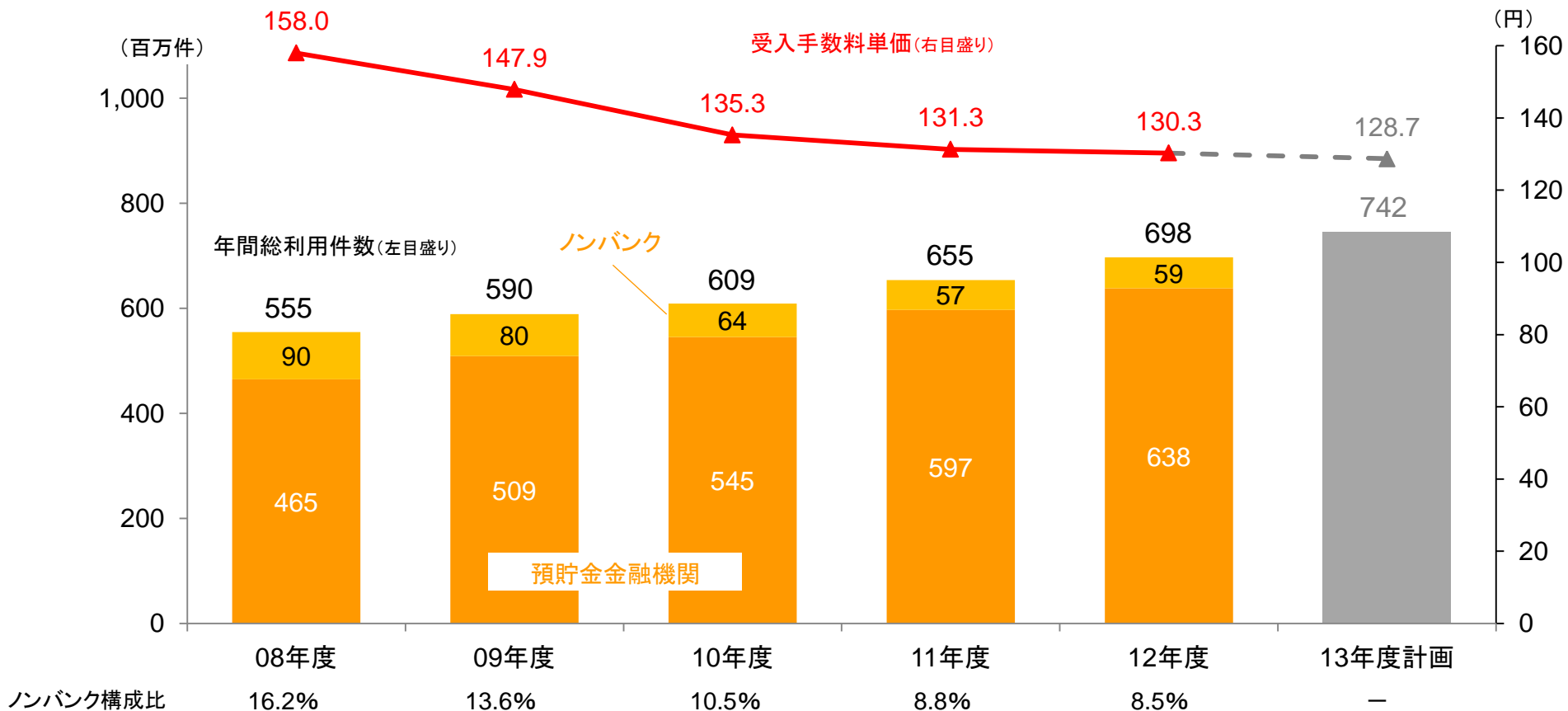
(単位:億円)

	11年度 通期実績	12年度実績			13年度計画			
		修正計画 (2012年11月)	通期	前年差異	通期	前年差異	上期	前年差異
<b>経常収益</b>	<b>883</b>	<b>938</b>	<b>941</b>	<b>58</b>	<b>990</b>	<b>49</b>	<b>496</b>	<b>29</b>
うちATM受入手数料	838	888	888	50	935	47	470	28
<b>経常費用</b>	<b>587</b>	<b>633</b>	<b>620</b>	<b>33</b>	<b>635</b>	<b>15</b>	<b>317</b>	<b>15</b>
うち資金調達費用	19	15	16	△ 3	18	2	10	3
うちATM設置支払手数料	99	107	106	7	115	9	57	5
うち業務委託費	150	160	158	8	171	13	87	10
うち保守管理費	42	40	39	△ 3	40	1	20	0
うち土地建物機械賃借料	10	8	9	△ 1	6	△ 3	3	△ 1
うち減価償却費	123	141	138	15	129	△ 9	60	△ 2
<b>経常利益</b>	<b>295</b>	<b>305</b>	<b>320</b>	<b>25</b>	<b>355</b>	<b>35</b>	<b>179</b>	<b>14</b>
特別損益	△ 2	△ 2	△ 5	△ 3	△ 9	△ 4	△ 1	1
法人税等合計	120	115	119	△ 1	131	12	67	5
<b>当期純利益</b>	<b>172</b>	<b>187</b>	<b>195</b>	<b>23</b>	<b>214</b>	<b>19</b>	<b>110</b>	<b>10</b>
期末ATM設置台数(台)	16,632	17,700	<b>18,123</b>	1,491	<b>19,300</b>	1,177	18,600	1,270
ATM受入手数料単価(円)	131.3	130.0	<b>130.3</b>	△ 1.0	<b>128.7</b>	△ 1.6	129.4	△ 0.9
平均利用件数(件/台/日)	112.6	111.5	<b>111.1</b>	△ 1.5	<b>109.4</b>	△ 1.7	110.9	△ 1.8
総利用件数(百万件)	655	699	<b>698</b>	43	<b>742</b>	44	371	24

注1) 計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 前年差異は億円単位(総利用件数は百万件単位)で比較

- 総利用件数は前年度比 +6.5%の698百万件
- 預貯金金融機関取引 +6.9%、ノンバンク取引 +3.0%



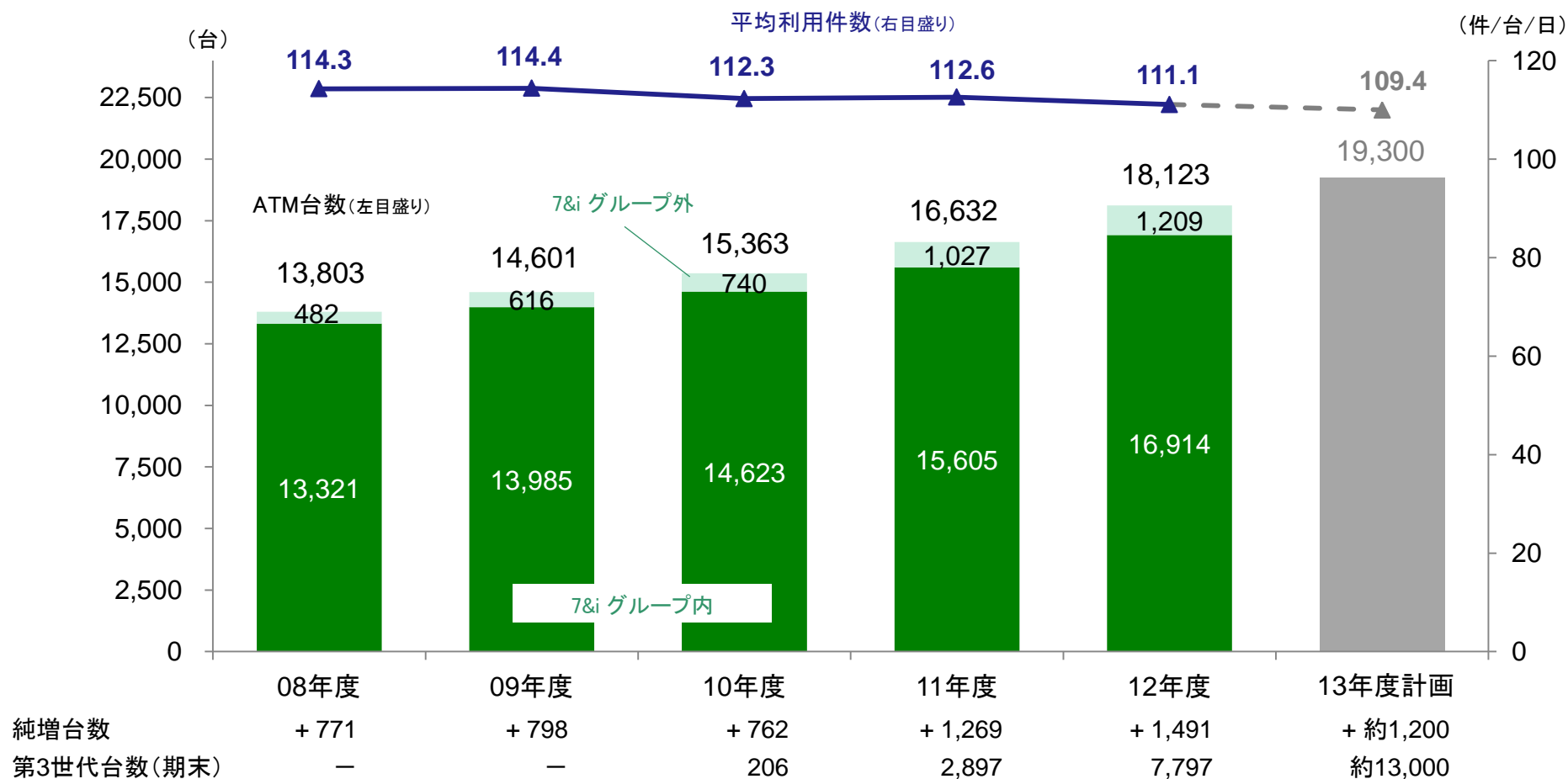
注1) 総利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず

注2) 計数は全て表示単位未満切捨て

注3) ATM受入手数料単価は、ATM受入手数料 ÷ (総利用件数 - ATM受入手数料収入を伴わない利用件数<売上入金等>) で算出

注4) 本資料におけるノンバンクは、証券会社、生命保険会社、クレジット会社、信販会社、消費者金融会社等の合計

- ATM台数はグループ内外とも順調に増加
- 13年度は純増約1,200台。第3世代ATMは、新設・入替含め約5,000台増加



注1) 平均利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず  
 注2) 計数は全て表示単位未満切捨て

- 2012年度は、10行と提携開始
- 2013年度は、6行と提携予定。未提携行は9行

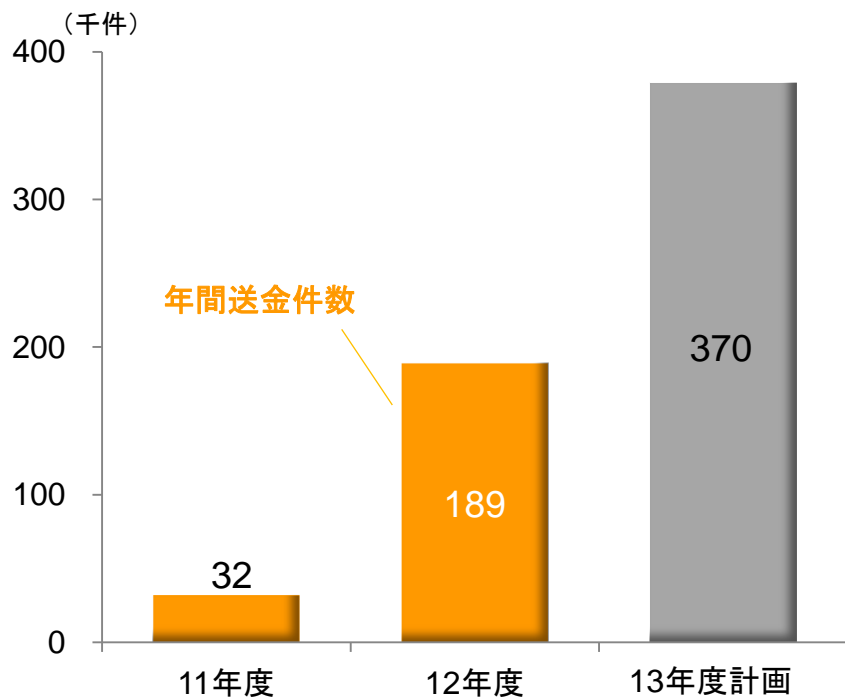
2012年度 提携開始			2013年度以降 提携開始			未提携
百十四銀行	(香川)	2012年5月	四国銀行	(高知)	2013年4月	地銀 7行 その他 2行
西日本シティ銀行	(福岡)	2012年5月	伊予銀行	(愛媛)	2013年4月	
北都銀行	(秋田)	2012年5月	愛媛銀行	(愛媛)	2013年4月	
池田泉州銀行	(大阪)	2012年8月	高知銀行	(高知)	2013年4月	
香川銀行	(香川)	2012年10月	三重銀行	(三重)	2013年4月	
徳島銀行	(徳島)	2012年10月	島根銀行	(島根)	2013年秋	
大垣共立銀行	(岐阜)	2012年11月				
みちのく銀行	(青森)	2013年1月				
富山銀行	(富山)	2013年1月				
阿波銀行	(徳島)	2013年2月				



## 海外送金サービス

- ・ 12年度は、イベント活動等や多言語化対応を実施
- ・ 当面の目標である送金件数年間100万件（収益規模20億円）に向け新規顧客獲得に注力

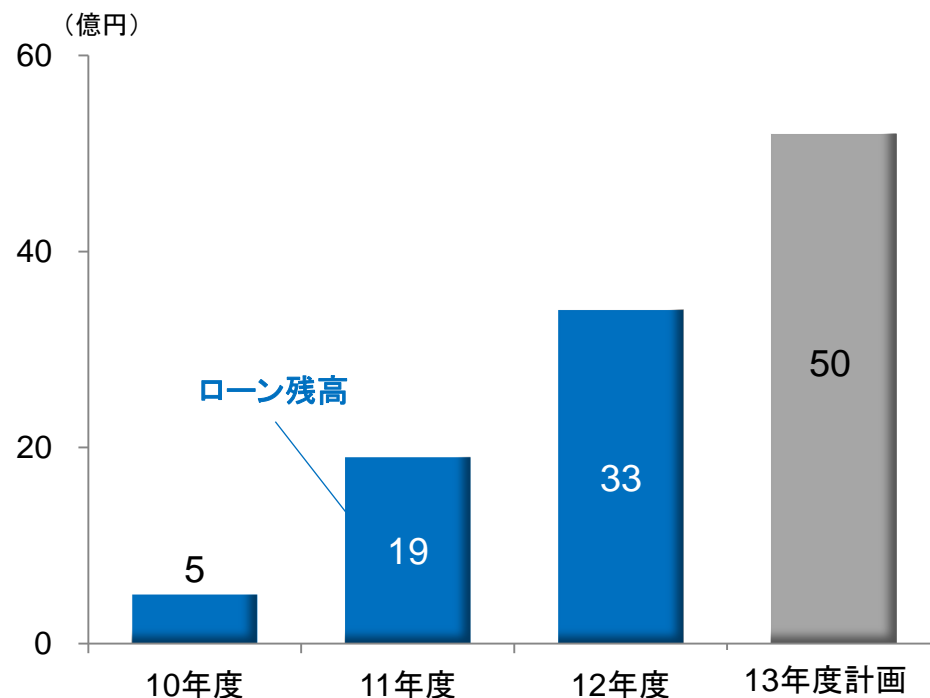
13年度目標件数 : 370千件



## 個人向けローンサービス

- ・ 低コストで効果的な顧客アプローチによりローン残高は着実に増加
- ・ 当面の目標はローン残高80億円（収益規模12億円）

13年度目標残高 : 50億円



## 貸借対照表(2013年3月末)

(単位:億円)

現金預け金 4,718 ①	預金 3,943 ④
有価証券 836 ②	社債・借入金 1,730
ATM仮払金 1,749 ③	ATM仮受金 617 ⑤
その他 791	その他 432
	純資産 1,370

資産 8,094 負債+純資産 8,094

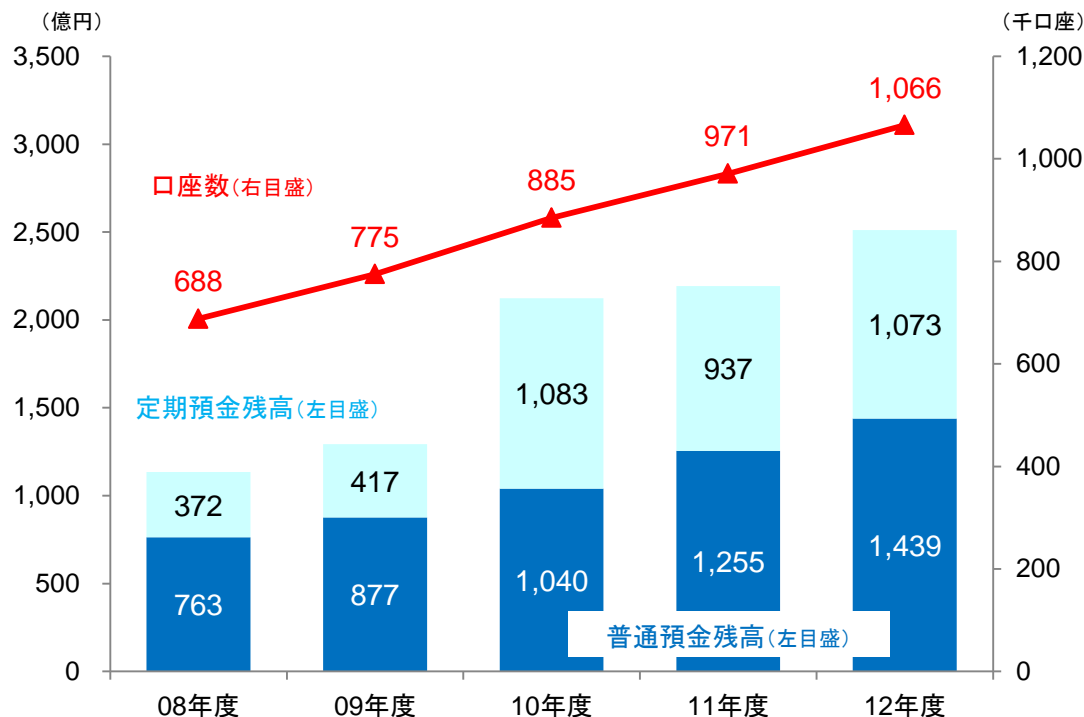
- ①主にATM装填用の現金
- ②主に為替決済、日銀当座貸越取引の担保
- ③ATMの出金に伴い一時的に発生
- ④うち個人預金:2,512億円、法人預金: 948億円
- ⑤ATMの入金に伴い一時的に発生

注) 表示単位未満切捨て

## 高い財務健全性と信用力

単体自己資本比率(国内基準) 50.13% (速報値)  
 格付(2013年3月末現在) S&P AA- (長期発行体)  
 R&I AA (発行体)

## 個人の口座数と預金残高の状況



方針

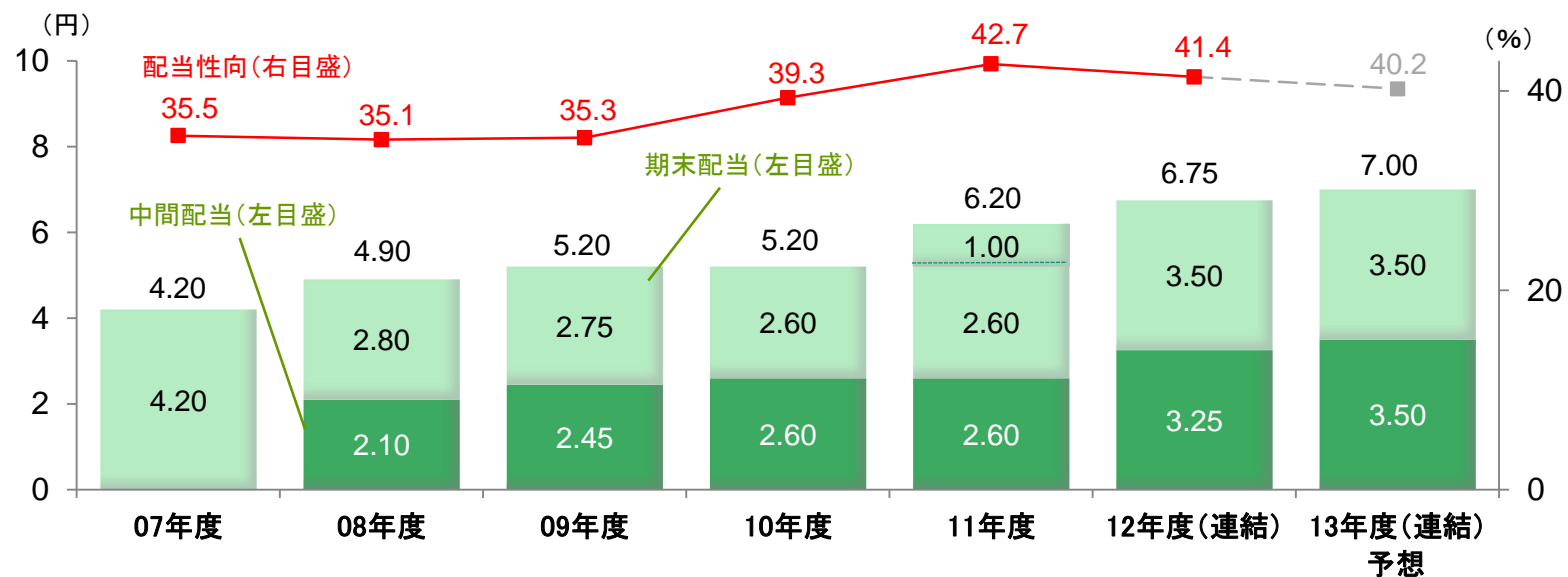
継続的な安定配当の実現を目指し、連結配当性向は年間35%を最低目標に、年2回配当を実施

配当実績・予想

12年度： 期末を3.50円に引き上げ、中間と合わせ年間6.75円(配当総額80億円)の配当

13年度： 中間・期末ともに3.50円、年間7.00円(配当総額83億円)の配当を行う予定

配当金、配当性向の推移

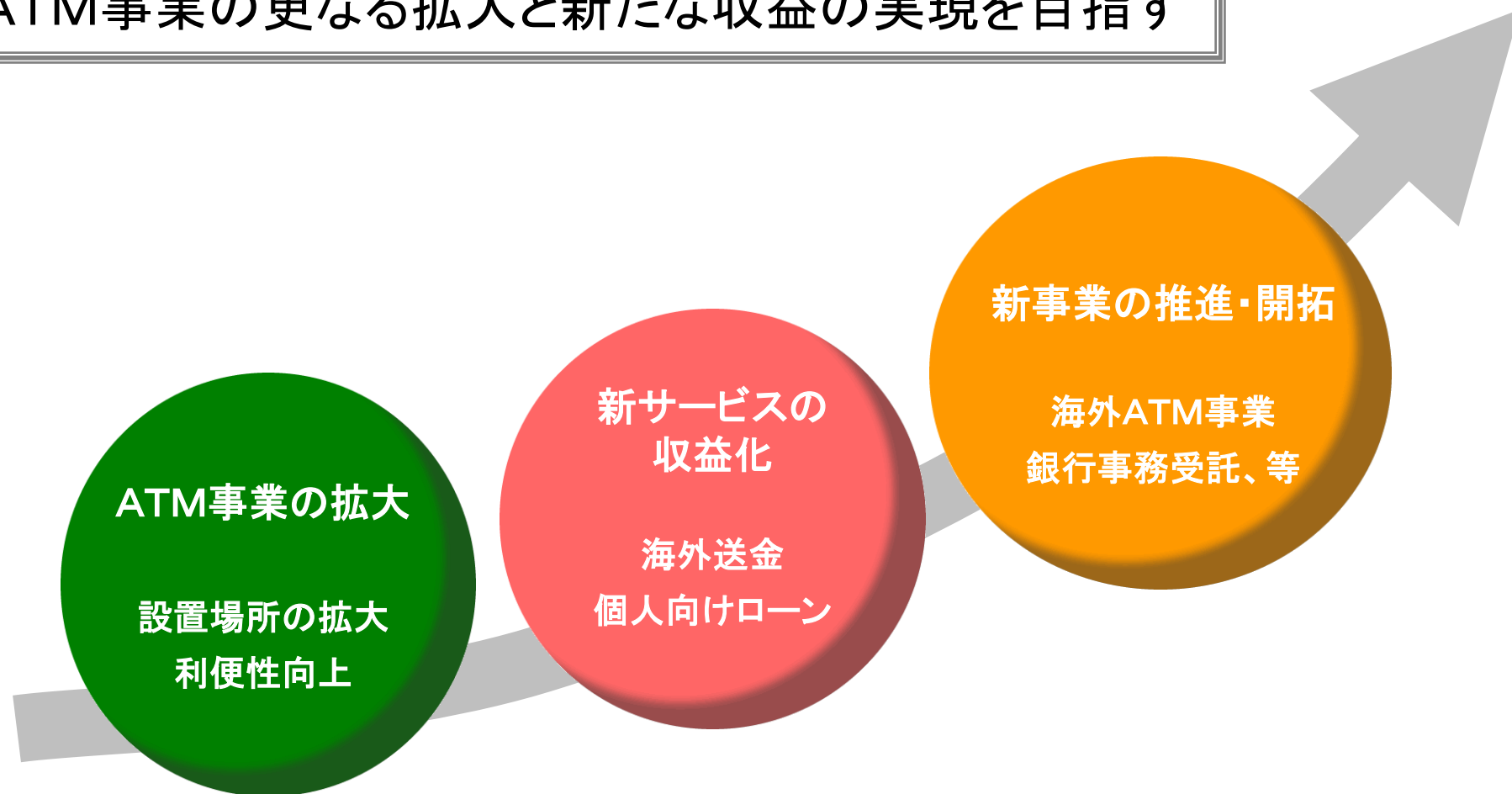


注1) 2008年度から、中間・期末の年2回配当実施

注2) 2011年12月1日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割を実施しており、上表は、過去の配当についてもこの分割を反映して計算したものの

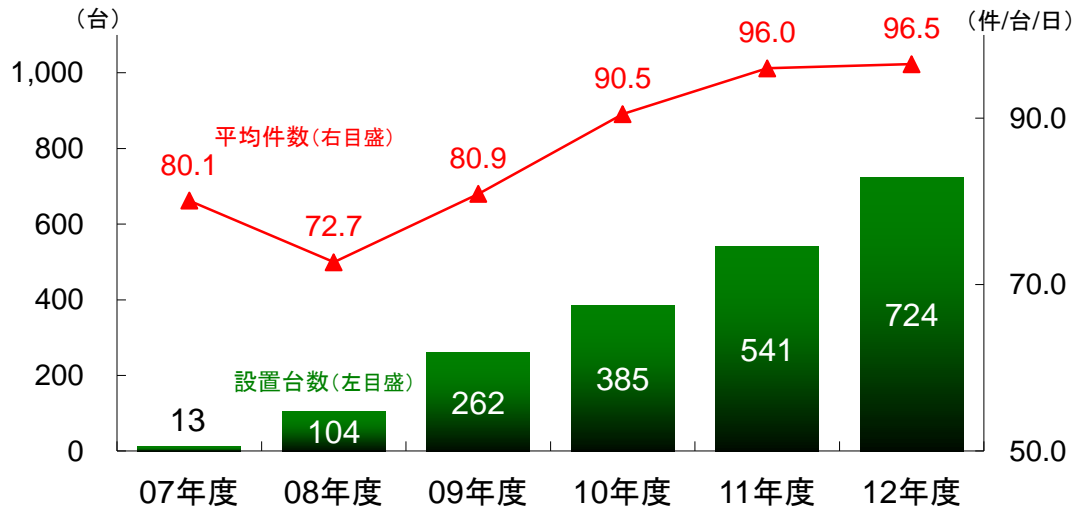
注3) 2011年度は期末配当に1.00円の東証上場記念配を上乗せ、2012年度は期末配当に0.25円増配

次の10年に向け、  
ATM事業の更なる拡大と新たな収益の実現を目指す



## グループ外設置(除く証券会社)の拡大

《期末設置台数・期中平均件数の推移》



《設置場所の内訳》

(単位:台)

	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
空港	9	22	30	30	33	36
駅・交通系	1	24	61	71	84	98
商業施設	—	32	115	196	298	417
その他	3	26	56	88	126	173
合計	13	104	262	385	541	724

## 主なグループ外設置事例

セブン-イレブン等での運用実績を反映し、様々な設置ニーズに対応して拡大



### JR東京駅丸の内北口(外貨両替所内)

- ・海外発行カード対応など強みを発揮



### 東京メトロ(8駅)

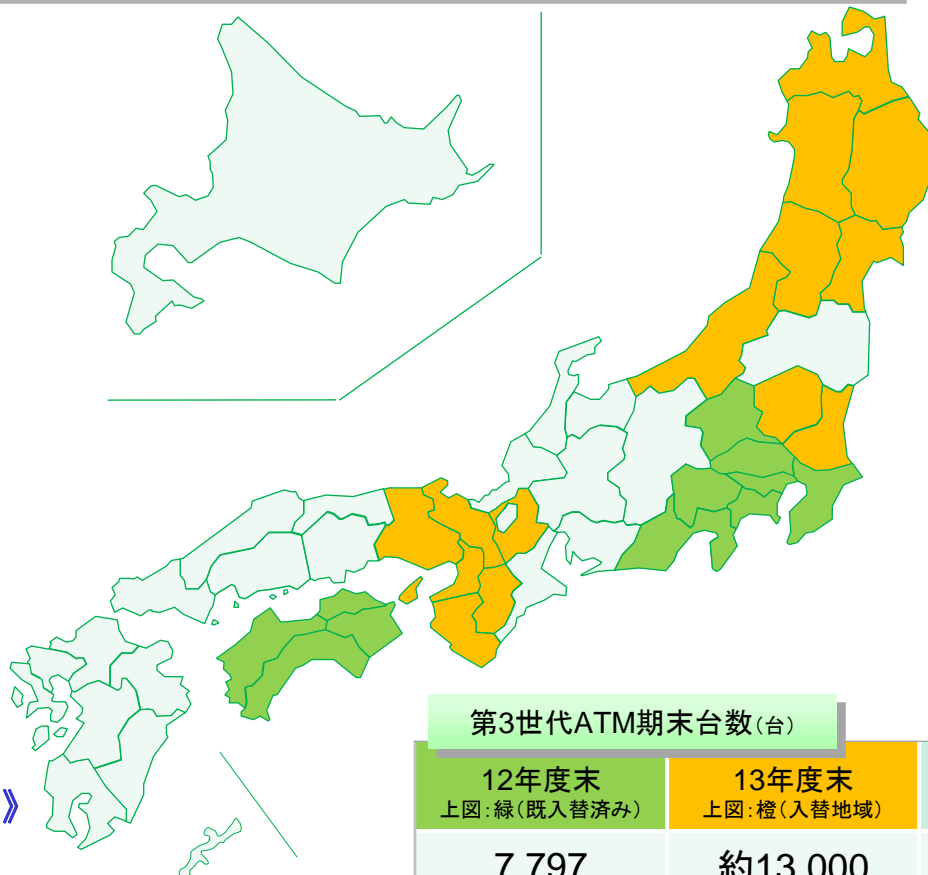
- ・複数の商業施設を保有する企業や主要交通機関へアプローチすることで大口設置を実現

### 東京ソラマチ・渋谷ヒカリエ

- ・話題の新観光名所スカイツリーに隣接する「東京ソラマチ」、渋谷に開業した大規模商業施設「渋谷ヒカリエ」にそれぞれ設置

## 第3世代ATM入替により更なる利便性の実現

- お取引時間短縮や省電力化等、お客さま・社会のニーズに適合したATMの積極展開
- 2013年度で第3世代ATMが過半へ、2015年度で入替完了予定



第3世代ATM期末台数(台)

12年度末 上図: 緑(既入替済み)	13年度末 上図: 橙(入替地域)	~15年度末 上図: 薄緑(入替地域)
7,797	約13,000	全国完了予定

《 第3世代ATM 》

## 安心・安全面の追求

- ICカード取引を海外発行カード等に拡充予定(国内銀行取引は対応済み)
- ATMの異物検知システムやモニタリングシステムの開発・導入



あらゆる犯罪利用を  
断固阻止していく  
ATM を徹底追求

## 分かりやすいATM画面

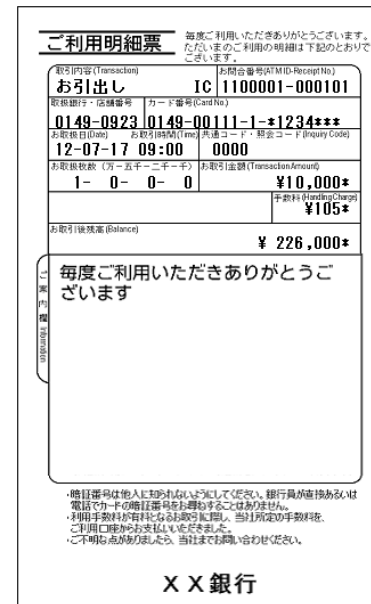
- ① 文字の大きさを **1.5~2倍**
- ② 文字は **短く簡潔に**
- ③ より多くの方が利用しやすい **色づかい採用**



注1) 2013年5月より順次開始、8月にはすべてのATMに導入予定  
 注2) 上記対応は、預貯金金融機関および証券会社のみ

## 見やすい明細票

- ① レイアウトを **お客さま目線で入替えシンプルに**
- ② 必要な情報は **文字を大きく強調**



- 当社サービスのクオリティや独自性を高め、他社サービスと差別化へ
- 対面営業にプラスして、非対面でのサービス・問合せ対応を充実

2013年度

3~4年以内に  
年間送金件数  
100万件超へ

2012年度

2011年度

2013年度下期 ATM画面の多言語化対応  
カスタマーセンターと同様の9言語にて取引可能に

2013年2月 海外送金カスタマーセンター設置

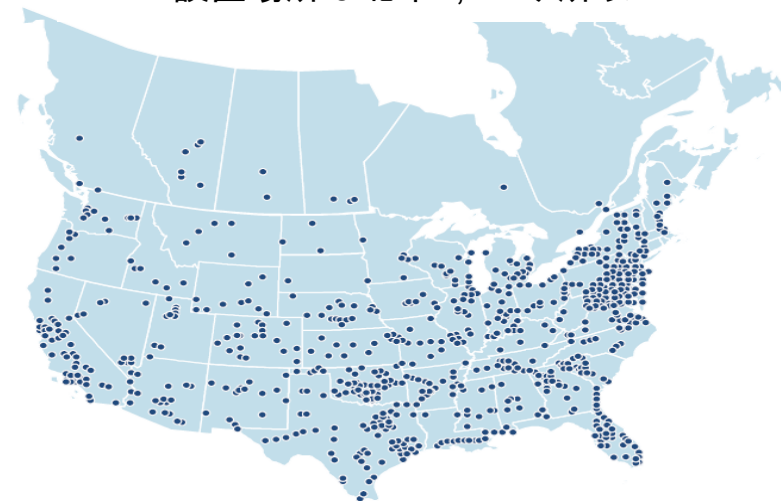
- ・ 問合せ・申込類の受付・照会等のお客さま窓口を一元化
- ・ 全9言語に対応  
(日本語、英語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語)



## 基礎データ (2012年12月末)

会社名	Financial Consulting & Trading International, Inc.
所在地	米国カリフォルニア州ロサンゼルス
従業員数	38人
ATM台数	2,542台
資本金	19百万米ドル
総資産	44百万米ドル
買収金額(取得価格)	136百万米ドル

ATM設置場所は北米2,500ヶ所以上



## 事業概要

- **北米での事業展開**  
世界最大のATM市場である米国中心にATM運営事業を展開
- **高い利用件数**  
利用ニーズの高いトラック・ストップ中心にATMを設置
- **高い手数料単価**  
銀行間利用料に加え、ATM自社保有により顧客手数料を獲得
- **低い費用**  
シンプルなATMや少人数での運営によりローコストを実現

## ATMの特徴



- 主に米・韓国メーカーから調達
- 出金専用の安価なATM
- 格納現金の準備は外部委託 (B/Sの資産としては計上されない)
- 取扱は20米ドル紙幣のみ

- FCTI単体では、13年度経常収益55.8百万米ドル、経常利益2.0百万米ドルと利益確保
- 今後はATM設置台数の拡大により利益幅の拡大を目指す

(単位:百万米ドル)

	12年度 通期実績 (連結対象期間)	13年度計画	
		通期	上期
経常収益	10.5	55.8	23.4
経常費用	10.4	53.7	23.2
経常利益	0.1	2.0	0.3
当期純利益	0.1	2.0	0.3

注1) 12年度通期連結決算には、FCTIの連結対象期間(2012年10月6日～2012年12月31日)のみ連結

注2) 計数は全て表示単位未満切捨て

### 主要計数計画

	12年度実績 (連結対象期間)	13年度計画
期末ATM設置台数(台)	2,542	3,300
総利用件数(百万件)	3.7	20.9

注1) 総利用件数は、FCTIの連結対象期間(2012年10月6日～2012年12月31日)の利用件数

### 連結決算への影響

- のれんの金額は約88百万米ドル(償却期間10年)
- のれん以外の償却が必要な無形固定資産は66百万米ドル(加重平均償却期間12年)

注1) 12年度通期連結決算には、FCTIの連結対象期間(2012年10月6日～2012年12月31日)のみ連結

注2) 計数は全て表示単位未満切捨て